

# Card Magic Library

## 第1巻

= 内容見本 =

### 目次

目次のすべてを抜粋してありますので、書かれている内容、技法、作品のすべての項目名がわかります。

### 第1章 技法解説例

第1章“技法解説ダブルリフト”より、技法解説2例を紹介。

### 第2章 作品解説例

第2章“ダブルリフト作品集”から1作品を紹介します。解説はこの例のように、多くの写真とともに、わかりやすく書かれています。

### 第3章 スベンガリストック前書

第3章“スベンガリストック”の前書を抜粋してありますので、どのようなジャンルのマジックであるかわかります。

### 第4章 スタニオンズマジック前書

第4章“スタニオンズマジック”の前書です。カードマジックの資料としての重要性がわかります。

### 参照文献目録

参照 / 引用した文献のリストです。書籍 58 冊、雑誌 13 種 / 42 号、インターネット 5 サイト。

(解説作品数 合計 98 作品、使用図解 / 写真 331 枚)

# 目次

序文		001
第1章 技法解説 ダブルリフト		
Part 1 ヒストリー		009
Part 2 ゲットレディ系ダブルリフト		013
ブレーク保持法		013
ジーン・ヒューガードのダブルリフト	ジーン・ヒューガード	014
パーティカルターン		014
ダイ・バーノンのダブルリフト	ダイ・バーノン	015
サイドターン		016
ノープレイヤーダブルリフト	バーリング・ハル	018
スタッドダブルリフト	ケン・クレンツェル	019
スタッドターン		019
ピボットダブルプッシュオフ		020
バーノンプッシュオフ	ダイ・バーノン	021
サムベースプッシュオフ	ハワード・ワード	022
クリフ・グリーンのだらぎダブルリフト	クリフ・グリーン	023
Part 3 ストライク系ダブルリフト		024
インスタンティニャスダブルリフト	ヤコブ・ダレイ	024
スナップオーバーダブルリフト	ポール・ル・ポール	025
スナップターン		025
エピソード よくないダブルリフト		026
Part 4 プッシュオフ系ダブルリフト		027
スタンダードダブルプッシュオフ		027
インスタントダブルターンオーバー	ジョン・ハマン	029
パーフェクトダブルプッシュオフ		030
Part 5 変則ダブルリフト		033
ファンからのダブルリフト	ダイ・バーノン	033

センターダブルリフト	ジャック・エイビス	033
ラリバースダブルリフト	ジェニングス&加藤	034
テーブルダブルリフト1		035
テーブルダブルリフト2	エディ・フェクター	035
テーブルダブルリフト3	加藤英夫	036
ジョン・ハマンのスモールパケットダブルリフト	ジョン・ハマン	037
ワンハンドダブルリフト		038
フリッパント	ルーイ・シモノフ	038
Part 6 リプレイメント		039
バーノンリプレイメント	ダイ・バーノン	039
タマリッツリプレイメント	ホワン・タマリッツ	040
キャロルリプレイメント	ホセ・キャロル	041
コリンズリプレイメント	スタンレイ・コリンズ	042
キャッツリプレイメント	マックス・キャッツ	043
エピソード よくないダブルリフトの元凶を発見!		045
Part 7 トラップ		046
小指のブレークによるトラップ		046
アルトマントラップ	アール・アルトマン	047
ヒューガードトラップ	ジーン・ヒューガード	048
Part 8 コンビンサー		049
エピソード 歴史を覆す発見		051
Part 9 関連技法		052
KMムーブ	カルディオ&マルロー	052
ダブルカードプットダウン		053
ダブルカードピックアップ		053
プッシュインチェンジ	ジーン・ヒューガード	054
天海アディション	石田天海	056
ドラグアディション	加藤英夫	057
プッシュインコントロール	加藤英夫	058
Part 10 重要ポイント		059
Part 11 表現		062

カードの返し方	ダイ・バーノン	063
ダブルターンオーバーにおける空間の使い方	ホワン・タマリッツ	064

## 第2章 ダブルリフト 作品集

Part 1 変化系		066
ツイストチェンジ	加藤英夫	066
ヒット&ダン	加藤英夫	069
目の錯覚	加藤英夫	070
ポーカーフェース 2	ヤコブ・ダレイ	071
ダブルチェンジ	アル・リーチ	074
クイックリセット	加藤英夫	077
ピップオブクラブ	加藤英夫	078
ラ・カルタ・ダイアコニス	ペルシ・ダイアコニス	080
Part 2 トランスポジション系		082
インポシブルトランシット	ジーン・ヒューガード	082
トランスポジション	ジーン・ヒューガード	084
誤認逮捕	加藤英夫	085
バックイントゥータイム	ロイ・ウォルトン	087
バーノズエクスプレス	ダイ・バーノン	087
上か下か	加藤英夫	089
へんなトランスポジション	加藤英夫	093
マッチングペアーズ	ジェリー・サドウィッツ	095
肉まんの食べ方	加藤英夫	097
Part 3 エレベーターカード系		100
デビルズエレベーター	バーノン&サーボン	100
ヘルレイザー 2	ピーター・ダフィ	102
リアルエレベーター	加藤英夫	103
ペネトレイティングエーセス	加藤&ロジャース	105
デビネーション, ディスカバリー, ディパーチャー	ピーター・ケーン	107
超空間エレベーター	ピーター・ケーン	108
Part 4 カード当て系		110
搜索活動	加藤英夫	110
ロケーション, トランスポジション, トランスフォーメーション	ビリー・オコーナー	111

ダウンアンダーエクステンジ	フィネル&加藤	114
ストップミー	ケン・クレンツェル	115
Part 5 リバース系		118
アミュージングリバーサル	リン・シャルズ	118
方針変更	加藤英夫	119
ノーベルカードディスカバリー	ジーン・ヒューガード	119
Part 6 フォーオブアカインド系		121
タップタップタップ	加藤英夫	121
幽霊カード	加藤英夫	122
見ていないカード	加藤英夫	124
マジシャン対ギャンブラー・ギミック版	加藤英夫	125
タイトルバウト	マーチン・ナッシュ	126
マジシャン対マジシャン	加藤英夫	128
アメージングエーセス	パート・アラートン	130
アメージングエーセス・ギミック版	加藤英夫	131
Part 7 サイントリック系		133
シグネチャートランスポジション	ピーター・ケーン	133
ポジションリクエスト	加藤英夫	134
あっちに●、こっちに●	加藤英夫	135
エモーショナルボンディング	デヴィッド・エーサー	136
イニシャルの飛行	加藤英夫	139
Part 8 オイル&ウォーター系		141
血は油よりも濃い	ハワード・ライオンズ	141
ワイルドルート	ハワード・ライオンズ	142
魔法の混ぜ方	加藤英夫	144
あなたはバーテンダーになれる	加藤英夫	145
スローモーションオイル&ウォーター	加藤英夫	146
ささやかなオイル&ウォーター	加藤英夫	148
Part 9 レッドホットマンマ系		150
シカゴオープナー	フランク・ガルシア	150
シカゴオープナー小史	ランディ・ウェイクマン	151

ラザーオッド	フランク・ポッツ	152
マルチプルチェンジ	ダイ・バーノン	153
モシヤスカード	加藤英夫	154
Part 10 その他		156
ウイスパリングクイーン	ハリー・ケラー	156
メンタルサブトラクション	ヘンリー・クリスト	157
シンプルプランジャー	加藤英夫	158
もしかして超能力者？	ジョセフ・フライズ	160
赤いクライマックス	加藤英夫	161
999 番目のエーストリック	ヤコブ・ダレイ	163
パイルドライバーズ	ジェリー・ハートマン	164
パイルドライバーズ・加藤版	加藤英夫	165

### 第3章 スベンガリストック

Part 1 スベンガリストック小史		167
Part 2 スベンガリストックの作り方		170
Part 3 メネテケルタイプ		171
メネテケルコインシデンス	グレン・グラバット	171
ダブルテイク	ロバート・ガンサー	172
3枚のカードのアンビシャス	セオダー・アンネマン	173
Part 4 マッチングペアタイプ		174
パワーオブツイン	加藤英夫	174
双子の絆	加藤英夫	177
ジェミニツイン・ギミック版	加藤英夫	178
Part 5 リラティブタイプ		179
この中不在カード	エリス・スタニオン	179
絶対不可能透視術	加藤英夫	180
オートメーション	カール・ファルブズ	182
ロイヤルセレモニー	加藤英夫	182
Part 6 赤黒交互タイプ		184

レッド&ブラック	ジョン・ケネディ	184
カラーセパレーション	ノーマン・ギルプレス	185
よく混ざるカード	加藤英夫	187
コールドウーザワールド	加藤英夫	187

Part 7 特殊タイプ 190

カットディテクション	加藤英夫	190
ニーザブラインドノアシリー・ギミック版	ホワン・タマリッツ	191
スクラッチプリディクション	加藤英夫	192
20枚のポーカーディーラー	ニック・トロスト	193
モストミステリアスリバーズ	加藤英夫	194
終わりのマジック	加藤英夫	196

第4章 スタニオンズマジック 第1部 (1900年11月号～1905年5月号)

新しいフォースの方法	プロフェッサー・ホフマン	201
新しいカードバランストリック	J. A. ジャクソン	202
奇抜なデッキのすりかえ	チャールス・ニュートン	203
2枚のA	エリス・スタニオン	204
新・消失カード	エリス・スタニオン	205
アーティスティックで巧妙なカード当て		205
選ばれたカードを見つける	ヒューバート・ピクトン	206
コーナーを曲げて見つける	ヒューバート・ピクトン	207
変わった透視術	クリントン・バージェス	207
新・カードの復活	エリス・スタニオン	208
アクメコントロール	エリス・スタニオン	209
奇抜なカードトリック	エドウィン・サクス	209
カード記憶術	エリス・スタニオン	210
もうひとつのカード記憶術	サティア・ランジャン・ジョイ	211
フォーエーストリック	ジョン・N・ヒリアード	212
あるカードトリックの歴史	ベブ・バージェロン	213

## アルトマントラップ

= アート・アルトマン, “アドバンスドフィンガーチップコントロール”, 1970 年 =

以下の解説は、マルローの解説を忠実に翻訳したものです。

このアート・アルトマンのアイデアは、どのようなダブルリフトにもうまくとけ込むものであり、リフトとターンオーバーをスムーズに繰り返すのに有効に働きます。

1. あなたの得意なダブルターンオーバーで、カードを表向きに返してデッキの上に置こうとしています。2枚をデッキの上にフラットに置く代わりに、左親指の付け根で受け止めます。図 108。
2. 続けて親指の付け根は、2枚の左サイドを右に押し、図 109 のように反らせます。
3. 左手の指はいままでデッキのサイドを押さえていましたが、ここで力を抜いて、少し右に伸ばします。これによって、反ったカードが図 110 のようにずれます。
4. 図 110 のようにずれた状態からは、どのようなダブルターンオーバーを続けることもできます。

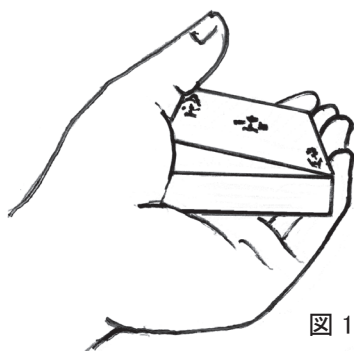


図 108

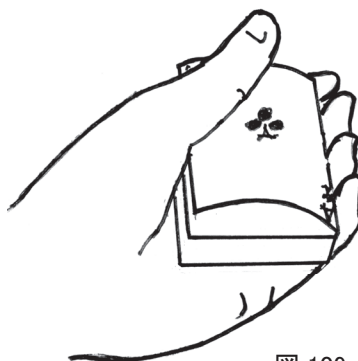


図 109

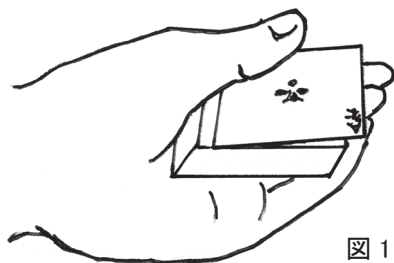


図 110

マルローは親指の付け根でカードを弾くと書いていますが、カードを反らさないで 22 ページの ‘サムベースダブルプッシュオフ’ のように、たんに右に押し出してやる方が、ナチュラルだと思います。ずれ方は弾くよりも少なくなります。サイドターン、バーティカルターン、スタッドターンなどにつなげるには、十分なずれ方です。

## 天海アディション

= 石田天海、直伝 =

この技法は石田天海師から直接教えていただいたものです。以下の説明では、カード当てで選ばれたカードを現す目的に使うものとして説明いたします。デッキの上から10枚目程度に選ばれたカードがあり、その下にブレークを保持した状態から始めます。

カードを広げていき、「このようにカードを広げていきますから、1枚のカードを指さしてください」と言いながら、ブレークの上の選ばれたカードをスプレッドの下に抜き出します。カルを行うときの抜き出し方です。

相手が指さしたら、そのカードをアップジョグして、カードをそろえますが、抜き出してあるカードをアップジョグカードの下に入れて、その下にブレークを作ります。

右手でアップジョグカードより上のカードを図129のようにつかみ、図130のように前に運びます。右親指で選ばれたカードを押して、アップジョグカードの下にそろえます。続けて図131のように持ち上げたカードを前に運び、テーブルに置きます。



図 129



図 130



図 131

アップジョグカードをバーティカルターンオーバーして、表向きにします。

この手法は、裏面の色違いのカードをフォースするのに最適です。その場合は、カードをスプレッドの下で抜き出すとき、色違いの面が露見しないように気をつけてやる必要があります。

## Part 3 エレベーターカード系

‘アンビシャスカード’と‘エレベーターカード’は、カードの移動現象という点では同類です。通常、前者は1枚のカードで行われ、後者では複数のカードで行われます。

### デビルズエレベーター

=ダイ・バーノン&ブルース・サーボン、雑誌“エピソード”、1972年11月号=

\* 現象 \*

クラブの2から5までの4枚と、4枚の赤いカードを使います。クラブの2を赤いカードの上から2枚目に入れると、すぐに上から出てきます。クラブの3を3枚目に入れると、やはり上から出てきます。同様に、クラブの4は4枚目、クラブの5は5枚目に入れますが、やはり上から出てきます。

\* 方法 \*

8D, 7H, 8H, 7D, 5C, 4C, 3C, 2Cの8枚を使います。クラブの2がフェースカードです。

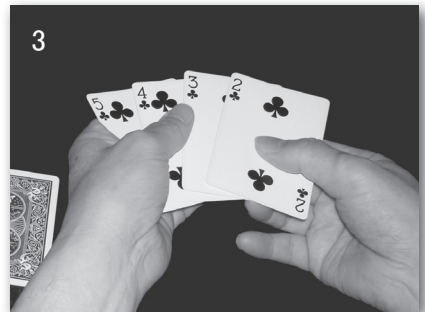
8枚を表向きに広げて見せ、図1、「赤いカードと黒いカードを4枚ずつ使います」と言います。閉じるときに上から5枚目の下にブレイクを作ります。



ブレイク上の5枚を右手でつかみ、左手の3枚を裏向きにしてテーブルの左の方に置きます。図2。



残りのカードを4枚として広げ、図3、クラブの2から5までを見せます。



カードを閉じて裏向きにビドルポジションに持ち、上から左手で「5、4、3」と言いながら、1枚ずつテーブルの正面に置いていき、3枚置いたら重なっている残りの2枚の表を見せながら、図4、「この2を最初に使います」と言います。



右手の2枚を裏向きにして赤の3枚のポケットの上に重ね、そのポケットを取りあげます。そのポケットの状態は、上から3C,2C,8D,7H,8Hとなっています。

ダブルリフトしてクラブの2を見せ、裏向きに戻します。「これは2ですから、2枚目に入れます」と言って、カードを広げて2と思われているカードを上から2枚目に入れます。図5。



マジカルジェスチャーをかけ、トップカードを表向きにして2が上がってきたのを見せます。2を表向きにテーブルの右の方に置きます。

テーブル上の裏向きのポケットのいちばん上にある、クラブの3と思われているカードを取り「3ですから3枚目に入れます」と言って、手に持っているポケットの上から3枚目に入れます。マジカルジェスチャーをかけ、トップの3を表向きにして、テーブルの右の方に置きます。

手元の赤ポケットを表向きにして、エルムズレイカウントで4枚の赤に見せます。裏向きに戻し、テーブルのポケットからクラブの4と思われているカードを取ってトップから4枚目に入れます。マジカルジェスチャーをかけ、トップの4を表向きにして、テーブルの右の方に置きます。

手元の4枚を裏向きのまま順番が変わるように数えて「確かに4枚です」といい、表向きにしてエルムズレイカウントして「全部赤いカードです」と言います。このポケットを裏向きにしてテーブル上のクラブの5と思われているカードの上ののせて、5枚を取りあげます。マジカルジェスチャーをかけ、トップの5を表向きに現します。

## 第3章 スベンガリストック

### Part 1 スベンガリストック小史

私はこの章で、スベンガリデッキの使い方を解説および収録するわけではありません。スベンガリデッキの使われている、ショートカードとロングカードを交互にセットするスタックについて、様々なものを書くのです。そのシステムについて定まった名称がないことから、私はその種のスタックを、‘スベンガリストック’と呼ぶことにしました。

まずは、スベンガリデッキそのものや、他のスベンガリストックにまつわる歴史的情報を、いくつかのソースから集めてみました。

\* ジーン・ヒューガード著“エンサイクロペディアオブカードトリックス”(1938年刊)前書より\*

このトリックデッキは、26枚のノーマルなカードと、ショートカードの26枚の同一のカードから構成されます。まれにエンドショート代わりに、サイドショートが使われることもあります。トップにショートカードの同一カードを置き、それ以降、ノーマルカードと同一カードが交互にセットされます。考案者であるバーリング・ハルは、彼の著書、“シールドミステリーズ”の中で、スベンガリデッキを1909年に著作権登録したと述べています。

\* ウィキペディアにおける“スベンガリ”の由来 \*

スベンガリという名前は、1894年に発行されたジョルジュ・モウリエールの小説“トリルビイ”の登場人物。トリルビイは画家のモデルを仕事とする美しい女性であったが、催眠術師のスベンガリと出会い、彼の指示を守れば、歌手として成功すると約束される。スベンガリに魂を預けたトリルビイは、歌手として成功するが、スベンガリの死とともに、声を失い、そして仕事を失い、そしてすぐに命をも失う。

この小説は、1983年にジョディ・フォスターを主演として、テレビジョンドラマとして放映された。今日では、“スベンガリ”という言葉は、“悪意をもって人の魂を操る者”という意味を持っている。

\* Library.com のマジックリーネイジプロジェクトより \*

スベンガリデッキは、バーリング・ハルが16歳のとき(1905年)に考案し、1909年に著作権登録しました。スベンガリデッキが大道販売として売られ始めたのは、1939年のニューヨークのワールドフェアにおいてでした。それを発端として、スベンガリデッキの大道販売が多くのマジシャンによって行われました。その中には、チャニング・ポロックやマイク・ロジャースなどもいました。

1909年に著作権登録されたときの申請書は、‘インブルーボードカード ミステリアス’というタイトルになっていました。そこに書かれていたデッキの構造は、今日のものと同じです。

スベンガリデッキの前身は、コーナーショートにした同一カードをノーマルカードと交互にセットするもので、1888年に存在していました。

\* “スタニオンマジック” , 1909 年広告より \*

雑誌“スタニオンマジック”1909年7月号の中に、スベンガリデッキの広告を見つけました。‘スベンガリワンダーデッキ’という名称です。考案者の名前として、バーリング・ハルではなく、ル・ロイとなっています。

この広告は、マジック界における有名なリップオフ(盗作)として、歴史に残ることになります。1909年にバーリング・ハルが著作権登録をしたために、その申請書を見たル・ロイが、ハルに無許可で製造し、売り出したのです。世に出たスベンガリデッキは、ル・ロイの手によるものが先であったのです。

なお、同誌には、‘メネテケルデッキ’もル・ロイのものとして広告が出ています。少なくとも、‘メネテケルデッキ’がその時点で存在していたことがわかりますが、スベンガリデッキを盗作した事実からすると、ル・ロイの考案というのは信じがたいことです。

\* “スタニオンマジック” , 1914 年記事より \*

エリス・スタニオンは、雑誌“スタニオンマジック”において、‘マジック辞典’を書き続けました。1914年3月号の中に、スベンガリスタックについての記述があります。彼は‘Fin de Sieele Pack of Cards’というタイトルで、つぎのように書いています。

これは、26枚のショートカードと26枚のロングカードを交互にセットしたデッキのことです。これにも様々なタイプがあって、ショートとロングが交互になっている点は共通していますが、カードの表の組み合わせが異なります。カードのカットの仕方は、エンドを短くするものですが、まれにコーナーをショートにしたものもあります。その場合は、左下と右上コーナーがショートコーナーとされ、カードがどちらを向いても機能するようになっています。

つぎにスタニオンは、メネテケルデッキについて解説しています。これは、2枚の同一カードをショートとロングでペアとして、26組の異なるペアを重ねたものです。デッキを表向きで

リフルすると、同じカードはショートの仕事で見えないので、すべて異なるカードであることが見せられます。その基本的な使い方として、スタニオンはつぎのように書いています。

デッキをリフルして、よく混ぜているのを見せたあと、デッキをリフルして相手に好きなところにナイフを突き刺させます。そのカードを取らせておぼえさせます。カードが取られたところからデッキをカットすると、選ばれたのと同じカードがトップにきます。選ばれたカードをデッキの好きなところに入れさせます。魔法をかけると、そのカードがトップから現れます。

それ以外にも、選ばれたカードと同一カードがトップにあることを利用して、それをビジュアルに現す方法や、選ばれたカードがデッキからポケットに飛行するやり方などが解説されています。

スタニオンがつぎに説明したものは、デッキをサイ・ステビンスにセットしたもので、それらがショートとロングの交互セットになっています。これを使うと、赤と黒を自由にカットできますし、奇数と偶数もカットによって判別することができます。

このあとに、スベンガリデッキについて書かれています。そのつぎに書かれているのは、エンドを斜めにカットすることによって、左側を斜めにカットするのと、右側を斜めにカットするのと、中央を起点にして両側へ斜めにカットするという組み合わせで、ノーマルデッキにも見せられて、しかも2種類のカードの好きな方をフォースできるというやり方が書かれています。

それを読んだだけでも、びっくり仰天したのに、つぎに書かれているものには、まさに打ちのめされました。同じ斜めカット3種類を使って、スベンガリデッキとも機能し、メネテケルデッキとしても機能するデッキが作れるというのです。

スベンガリスタックを使うマジックで重要なポイントは、このスタックはリフルシャフルによってくずれないということです。その性質を文献で明確に記述したのは、雑誌“スフィンクス”，1927年5月号における、ウォルターギブソンでした。

というわけで、スベンガリスタックの概念は、100年まえにスタニオンが手をつけていましたが、その後、このジャンルのマジックをまとめたり、深く研究したものは見られません。もちろん、個々のアイデアや作品は、雑誌などの中に散見されます。私はこの章において、その後に現れたものや、私自身が考案したものを加えて、スタニオンが後生に残したいと思ったものを、より明確にひとつのジャンルとしてまとめたいと思っています。

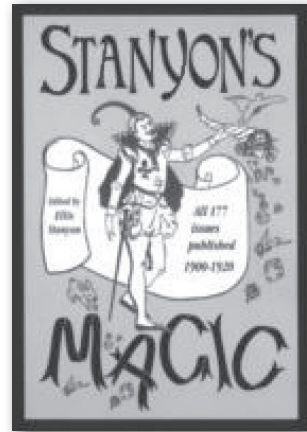
## 第4章 スタニオンズマジック

第1部 1900年11月号～1905年5月号

エリス・スタニオン(1870年～1951年)は、イギリスにおける著名なマジック販売者、著者、出版者でした。彼が月刊で発行した雑誌が、“MAGIC”であり、今日発行されている同名の雑誌と区別けするために、通称“スタニオンズマジック”と呼ばれます。1900年10月に開始されて、1914年9月号までと、1919年9月号～1920年6月号まで、177号が発行されました。途中は、戦争のために休刊していました。

スタニオンはその第1号で、出版の目的について、つぎのように書いています。

今日、マジックのスライハンドの部分について、世間ではよく知られていませんが、その部分をもっと知らしめたいと考えて、この雑誌を発行します。そのような部分が人々に知られれば、それだけマジックが広く受け入れられると考えるからです。マジックについて知られるデメリットよりも、得られるメリットの方が大きく、アマチュアマジシャンもプロマジシャンも必ず恩恵を受けられると信じます。



スタニオンは、この雑誌の中に、3つの大きな柱を持つこととなります。第一に、第1号から始まる“レッスンインマジック”に見られるように、マジックを指導するというスタンスです。第二に、“マジック百科事典”というタイトルで、様々なマジックを体系づけてまとめるという連載ものです。そして第三は、多くのマジシャンの演技を紹介するという目論見です。このことについては、マジシャンの演技を見て、独自にやり方を推理して解説するということまで手をつけたため、マジシャンからは批判的な意見も出たようです。

カードマジックの資料として見たとき、素晴らしい点と残念な点があります。素晴らしい点は、それまでに存在していたカードマジックをどんどん紹介したことです。プロのやっていたことまでどんどん書いたのですから、他の書物に見られないものもたくさんあります。しかしながら、それらは人のものを見て書いたものが大半で、きちんと考案者や出典が書かれていないものが多いのです。しかしながら、個々の作者や出典は不明でも、その時代に存在していたカードマジックがたくさん書かれているという点で、“スタニオンマジック”は、1800年代までのカードマジックの集大成として、大きな存在価値があります。

＝ 参考文献目録 ＝

- |        |                             |                      |
|--------|-----------------------------|----------------------|
| 1885 年 | スライトオブハンド                   | エドウィン・サクス            |
| 1887 年 | ニューエラカードトリックス               | オーガスト・ロタバーク          |
| 1900 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (7 月号)      | エリス・スタニオン            |
| 1900 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (11 月号)     | プロフェッサー・ホフマン         |
| 1902 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (7 月号)      | チャールス・ニュートン          |
| 1902 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (11 月号)     | エリス・スタニオン            |
| 1902 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (12 月号)     | 広告文                  |
| 1903 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (11 月号)     | ヒューバート・ピクトン          |
| 1904 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (2 月号)      | クリントン・バージェス          |
| 1904 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (8 月号)      | エリス・スタニオン            |
| 1904 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (12 月号)     | エドウィン・サクス            |
| 1905 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (1 月号)      | エリス・スタニオン            |
| 1905 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (3 月号)      | サティア・ランジャン・ジョイ       |
| 1905 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (5 月号)      | ジョン・ナサーン・ヒリアード       |
| 1909 年 | アートオブマジック                   | ネルソン・ダウンズ            |
| 1910 年 | マジシャンズマジック                  | ヘンリー・ハットン&アドリアン・プレート |
| 1901 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (3 月号)      | J.A. ジャクソン           |
| 1914 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (3 月号)      | エリス・スタニオン            |
| 1914 年 | 雑誌 “スタニオンズマジック” (4 月号)      | エリス・スタニオン            |
| 1919 年 | サーティカードミステリー                | チャールス・ジョーダン          |
| 1927 年 | 雑誌 “スフィンクス” (5 月号)          | ウォルター・ギブソン           |
| 1932 年 | アイオープナーズ                    | ラルフ・ハル               |
| 1933 年 | モアアイオープナーズ                  | ラルフ・ハル               |
| 1933 年 | 雑誌 “リンクリング” (11 月号)         | ハリー・ケラー              |
| 1933 年 | ファイブクロスアッププロブレムズ            | ダイ・パーノン              |
| 1933 年 | 202 通りのフォーシング               | セオダー・アンネマン           |
| 1934 年 | シー、イツ・ア・シークレット              | セオダー・アンネマン           |
| 1934 年 | カードマニピュレーション No. 1          | ジーン・ヒューガード           |
| 1934 年 | カードマニピュレーション No. 2          | ジーン・ヒューガード           |
| 1936 年 | 雑誌 “ジックス” (夏号)              | リン・シャルズ              |
| 1938 年 | グレーターマジック                   | ジョン・ナサーン・ヒリアード       |
| 1938 年 | エンサイクロペディアオブカードトリックス        | ジーン・ヒューガード           |
| 1940 年 | エクスパートカードテクニック              | ジーン・ヒューガード           |
| 1942 年 | ショーストッパーズウイズカーツ             | パート・アラートン            |
| 1943 年 | 雑誌 “リンクリング” (10 月号)         | ヘンリー・クリスト            |
| 1945 年 | マイベスト                       | ジェームス・トンブソン          |
| 1946 年 | カードコントロール                   | アーサー・バックレイ           |
| 1946 年 | 雑誌 “アブラカダブラ” (夏特別号)         | ビリー・オコーナー            |
| 1946 年 | 雑誌 “ゼン” (7 月号)              | フランク・ポッツ             |
| 1947 年 | カンジャリングメランジュ                | スタンレイ・コリンズ           |
| 1947 年 | マルローインスペード                  | エドワード・マルロー           |
| 1947 年 | 雑誌 “ヒューガードマジックマンズリー” (7 月号) | マックス・キャッツ            |
| 1948 年 | 雑誌 “ヒューガードマジックマンズリー” (5 月号) | ヤコブ・ダレイ              |
| 1949 年 | カードマジックオブポール・ル・ポール          | ポール・ル・ポール            |
| 1950 年 | スターオブマジック                   | ヤコブ・ダレイ              |
| 1951 年 | ロイヤルロードトゥーカードマジック           | ジーン・ヒューガード           |
| 1952 年 | 雑誌 “ヒューガードマジックマンズリー” (7 月号) | ジョセフ・フライズ            |
| 1955 年 | 雑誌 “イバイデム #6” (6 月号)        | ハワード・ライオンズ           |
| 1956 年 | 雑誌 “イバイデム #7” (9 月号)        | ハワード・ライオンズ           |
| 1957 年 | ダイ・パーノンブックオブマジック            | ルイス・キャンソン            |
| 1958 年 | 雑誌 “リンクリング” (7 月号)          | ノーマン・ギルブレス           |
| 1959 年 | カードマンシップ                    | アル・リーチ               |
| 1960 年 | 雑誌 “リンクリング” (8 月号)          | ハワード・ワード             |
| 1961 年 | ファーマーインナーシークレットオブカードマジック    | ルイス・キャンソン            |

1963年	雑誌“リンクリング”(9月号)	エドワード・マルロー
1966年	雑誌“ジニー”(5月号)	ロバート・ガンサー
1967年	アルティメイトシークレットオブカードマジック	ルイス・ギャンソン
1970年	アドバンスドフィンガーチップコントロール	エドワード・マルロー
1971年	雑誌“ポールベアラーズレビュー”(12月号)	ヤコブ・ダレイ
1971年	雑誌“エピソード”(7月号)	ダイ・バーノン
1972年	カードカバルケイド	アルトン・シャープ
1972年	トップシークレット	加藤英夫
1972年	ラリー・ジェニングスのカードマジック入門	加藤英夫
1972年	雑誌“エピソード”(11月号)	ダイ・バーノン&ブルース・サーボン
1972年	雑誌“ポールベアラーズレビュー”(2月号)	ジョセフ・シュミット
1972年	ミリオンダラーカードシークレッツ	フランク・ガルシア
1973年	ジーン・フィネルズカードマジック	ジーン・フィネル
1975年	エバーソースライトリー	マーチン・ナッシュ
1975年	コンプリートロジャース	マイク・ロジャース
1975年	ファーザーセッションウィズピーター・ケーン	ピーター・ケーン
1976年	アナザーセッションウィズピーター・ケーン	ピーター・ケーン
1977年	雑誌“クローズアップフォリオ”#8	ダイ・バーノン
1977年	エニセコンドナウ	マーチン・ナッシュ
1978年	カードトリックスフォーカーディシヤンズ	アル・リーチ
1978年	カードクラシックスオブケン・クレンツェル	ハリー・ローレイン
1979年	プロフェッショナルカードマジック	クリフ・グリーン
1982年	雑誌“ジニー”(11月号)	ロン・パウワー
1982年	雑誌“パピュラー”(1月号)	ホワン・タマリッツ
1985年	リチャード・アルマニヤック第3巻	リチャード・カウフマン
1987年	ザ・バーノンクロニクル 第1巻	スティーヴン・ミンチ
1987年	インスピレーションズ	ジェリー・サドウィッツ
1988年	ダーウィンオルティスアットザカードテーブル	ダーウィン・オルティス
1988年	フィフティーツー・ラバース	ホセ・キャロル
1988年	コンプリートウォルトン	ロイ・ウォルトン
1989年	ザシークレットオブブラザー・ジョン・ハマン	リチャード・カウフマン
1989年	雑誌“ジニー”(3月号)	ジョン・ケネディ
1989年	ソナタ	ホワン・タマリッツ
1991年	雑誌“ジニー”(2月号)	ベブ・バージェロン
1991年	雑誌“ジニー”(7月号)	デヴィッド・エーサー
1993年	マーチン・ガードナープレゼンツ	マーチン・ガードナー
1995年	雑誌“リンクリング”(1月号)	ホワン・タマリッツ
1995年	アフタークラフト	ジェリー・ハートマン
1997年	エフォートレスカードマジック	ピーター・ダフィ
1997年	カードマジックオブニック・トロスト	ニック・トロスト
1999年	雑誌“ジニー”(4月号)	加藤英夫
2001年	Card Magic At Random 第5号(12月31日)	加藤英夫
2002年	フレンチドロップホームページ	石田隆信
2002年	マジックカフェ(9月26日)	ランディ・ウェイクマン
2003年	オフザボックス第3巻	カール・ファルブズ
2003年	マジックカフェ(1月15日)	加藤英夫
2003年	マジックカフェ(2月25日)	加藤英夫
2008年	マジックカフェ(2月27日)	加藤英夫
2003年	マジックカフェ(11月26日)	加藤英夫
2004年	カードマジックショーアップ講座(2月25日)	加藤英夫
2007年	デニス・ベールホームページ	デニス・ベール
2007年	マジックカフェ(12月21日)	加藤英夫
2008年	マジックカフェ(2月11日)	加藤英夫
2008年	ウィキペディア	ウィキペディア
2008年	マジックリーネイジプロジェクト	Library.com